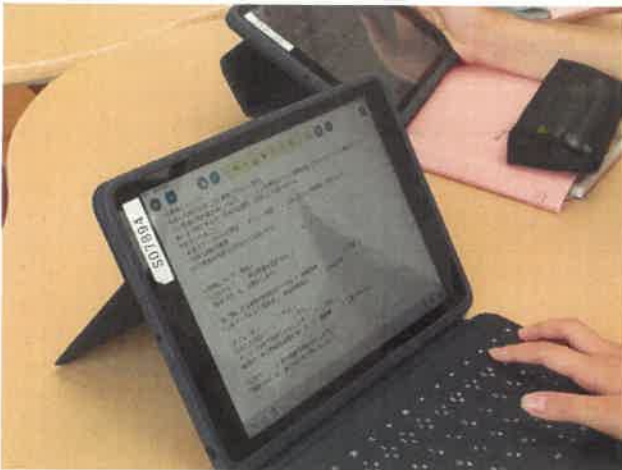


令和4年8月24日

第72次 印旛地区教育研究集会
技術・家庭科（家庭分野）

研究主題

社会の変化に対応した家庭科教育の展開
～コロナ禍におけるICTの活用～



第2部会 技術・家庭科研究部
成田市立西中学校 安藤 千絢
成田市立吾妻中学校 大西 香菜子

「社会の変化に対応した家庭科教育の展開」
～コロナ禍におけるICTの活用～

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説によると、「家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。」とされている。また、「実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。」とされ、実践的・体験的な活動が重視されている。しかし、令和2年より続く新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家庭分野の学習では感染の可能性が高い体験的な学習の多くが、今までのように実施できなくなっている。そのような中でも、生徒の学びを止めずコロナ後につなげるためにはどうすればよいのか模索しながら実践を行ってきた。

そこで、本研究では文部科学省のGIGAスクール構想により一人一台端末の環境が整い、その端末を活用した調査や交流活動を行う場面、実践活動を振り返り評価・改善する場面などで一連の学習過程の中で、一人一台端末を効果的にできるような家庭科教育のあり方を研究することとした。インターネットで検索をしたことをレポートにまとめるだけでなく、情報通信ネットワークを活用して情報を収集・整理したり、実践の結果をコンピュータを用いて分かりやすく編集し、発表したりする力をつけさせたいと考え、実践した。

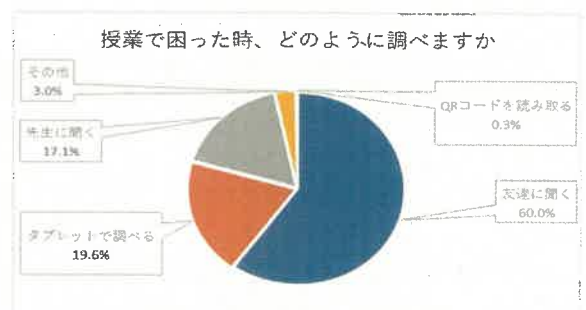
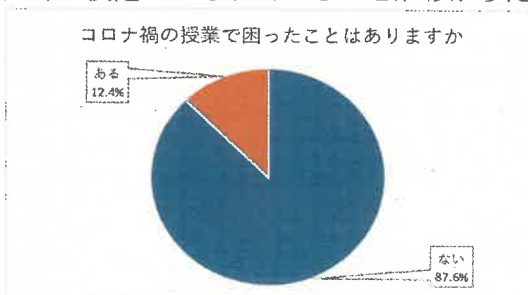
2 研究のねらい

(1) 生徒の実態

成田市市内の中学生 597 名にアンケートを実施した。アンケートの結果から、生徒は授業で分からないことがあったとき、「友達に聞く」生徒が60%を占めていた。「コロナ禍の授業で困ったことはありますか?」という質問に対して、「ある」と答えた生徒は12.4%いた。その理由として、出席停止による家庭でのリモート授業になった際、授業内容を理解することができても、質問や発表、課題の提出方法がよくわからずに困ったという回答が多かった。また、通信環境の問題から、画像や音声が届いてしまう問題もあった。生徒の中には、グループ活動ができないことに困り感をもつ生徒がおり、次のような回答があった。

- ・ 班で相談することができなくなっているため、1人で考えるのもいいが、わからないところがあると、わからないままになってしまうことが不安。
- ・ コロナ禍でなければ追加されなかったであろうタブレットでしかできなかったことが多すぎる。
- ・ タブレットを使うことはいいけれど、疲れる。
- ・ 出席停止になった時、誰にも聞けなかったため、テストでわからないことが多かった。
- ・ 濃厚接触者になり、登校できなくなってしまう、10日間休むことになった時、授業が受けられず、リモートだとわからないことも多かった。
- ・ 小学校の5、6年生の時から楽しみにしていた調理実習がいまだにできていない。悲しい。

話し合いや意見交換の場面が減り、学習を深めることが難しくなっていることが考えられる。生徒のアンケートからも「周りとの協力が減った」「人に聞けない」「授業で質問や発表がしにくくなった」等の意見があった。タブレット端末が導入されてからの感想について「すぐに調べられて便利」「クラスの全員と意見交換ができた」と答えた生徒もいた。その一方、「電波が悪いため、先生の話が聞き取りにくい」「質問や意見がしづらい」「板書やテレビに提示されている資料が見にくい」と答えた生徒もおり、課題も残っている。また、授業中や休み時間に不必要な検索等を行っている生徒もおり、情報モラルについての指導が後追いになっていることがわかった。



(2) 研究仮説

○1人1台端末の導入により、実習の際、各自で動画や画像を繰り返し見ることで、個別最適な学びが可能になるであろう。

○ICTを活用することで、視覚的に教材や意見を提示することができ、共感し、互いの価値観を認め合うことができ、協働的な学びになるであろう。

3 研究内容

(1) 題材の工夫

本研究では、コロナ禍における効果的なICTの活用について指導計画を工夫するとともに、以下の内容について取り組んだ。

- ・基礎的な知識の習得のための工夫
- ・解決策を構想する力を育成するとともに、その状況を評価するための工夫
- ・課題を設定する力を育成するための工夫

例えば、Bの衣食住の生活の布を用いた製作では、製作手順のスライドや道具の使い方の動画を、個人のタブレットで見ることができるようにした。個々のタイミングで手順や道具の操作方法を繰り返し確認できるようにすることで、基礎的な知識・技能の定着を図った。また、作品の製作進捗がわかるように、タブレットで作品の写真を提出させることで、生徒自身でも活動を評価し、更なる改善につなげるための課題を整理できるようにした。

関心意欲の高い生徒は、自主的に動画や教科書の写真等を活用して作業が進められるようになり、待ち時間が減り、作業を効率的に進められるようになった。個に応じた指導をすることができるので、基礎基本の定着度が上がった。しかし、動画の視聴だけでは作業内容が理解できず、直接の指導の方が有効な生徒もいた。また、生徒同士による直接的な対話の場面は少なくなっている。

(2) ICTを活用した授業の工夫

ICTを活用することで容易にできるようになったことは以下の5つである。

- ①一斉学習のコンテンツを個別学習に生かす
欠席者に板書やワークシートを写真やPDFで送付する。
- ②仲間との意見交換
ロイロノートのテキストやJamboardの付箋を使用し、多くの人の意見を共有する。
- ③外部人材からのアドバイス
MEETやZOOMなどのオンラインツールを活用する。
- ④グループ・ペア・全体で課題に向き合う交流
ロイロノート共有ノートを使用し、意見の交流を図る。
教材提示装置に生徒の意見を表示し、共有する。
- ⑤思考ツールの活用 →カリキュラムマネジメント
ロイロノートのシンキングツールを活用する。

タブレットを活用したことで、コロナ禍でも教え合いやグループ学習が行いやすくなり、意見交換が盛んになり、協働的な深い学びにつなげることができた。Jamboardやロイロノートなどをどの場面で使うことが効果的かについては今後研修を積んでいく必要があると感じている。

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35																				
1年 35時間	B 衣食住の生活【食生活】																																																						
	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
1年 35時間	1 自身の成長と家族生活										2 中学生に必要な栄養を満たす食事										3 ささまざまな食品とその保存										4 日常食の調理										5 地域の食文化					6 献立づくり					7 持続可能な食生活				
	1 食生活の役割と食習慣										2 中学生に必要な栄養を満たす食事										3 ささまざまな食品とその保存										4 日常食の調理										5 地域の食文化					6 献立づくり					7 持続可能な食生活				
1年 35時間	1 食生活の役割と食習慣										2 中学生に必要な栄養を満たす食事										3 ささまざまな食品とその保存										4 日常食の調理										5 地域の食文化					6 献立づくり					7 持続可能な食生活				
	1 食生活の役割と食習慣										2 中学生に必要な栄養を満たす食事										3 ささまざまな食品とその保存										4 日常食の調理										5 地域の食文化					6 献立づくり					7 持続可能な食生活				
2年 35時間	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
2年 35時間	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
3年 17.5時間	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								
	A 家族・家庭生活										B 衣食住の生活【衣生活】										C 消費生活・環境										生活の課題と実践																								

(3) 実践例

【内容B 衣生活】

1 題材名 生活を豊かにするものの製作

2 本時の指導

(1) 小題材 「しるしつけをして、本体を縫おう」

(2) 目標

- ・入れる物の大きさに合った手提げ袋を作ることができる。
- ・布や道具を正しく扱い、まっすぐ縫うことができる。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
導入 20分	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を確認する。 見いだす	・ミライシードに学習の流れのスライドを配布し、一緒に確認をする。	TV AppleTV スライド (ミライシード) タブレット
展開 15分	自分で取り組む 2 収納するものを決め、その道具にあった大きさや形を考え、完成までの見通しを持つ。	・完成の見本を数点用意し、製作の手順や大きさ、形を工夫できるようにする。 ○必要なものが入り、自分なりの工夫を加えた製作計画を立てることができる[思考・表現・判断]。 ・作業室は2つに分け、対面にならないように、互い違いに座席を配置する。	完成見本 スライド (ミライシード) アクリル仕切り タブレット
50分	広げ深める 3 しるしつけをし、アイロンを掛ける ・できあがり線にしるしをつける。 ・縫いしろをアイロンで折る	・タブレットのスライドや教科書のQRコードなどで手順を説明し、見通しが持てるようにする。また、繰り返し手順を確認できるようにする。	QRコード しるしつけの見本
	4 本体を縫う ・2枚の布を中表に合わせ、まち針を打ち、両わきとまちを縫う	・中表という言葉について説明する。 ・まち針の留める順番や向きを確認する。 ・ミシンを正しく安全に扱い、まっすぐ縫うことができる。 [知識・技能]	ミシン縫いの標本
15分	5 片付けをする ・共有で使用したものをアルコール消毒する。 ・針の本数を確認し、周りに落ちていないかを確認する。		アルコール消毒 布巾

	<p>まとめあげる</p> <p>6 本時の学習の振り返り、まとめタブレットで作品の写真を撮って、本時の反省を記入し、ミライシードで提出する。</p> <p>7 次回の学習の確認する。</p>	<p>タブレット ミライシード (オクリンク)</p>
--	--	-------------------------------------

3 題材の工夫

- ICTを活用した視聴覚教材を使用することで、繰り返し製作過程の確認ができるようにする。
- スライドの提示や作品の写真提出では、「ミライシード」の「オクリンク」を使用する。
- 全体への説明の際には、ミライシードに送ったスライドをAppleTVでTVに投影し、確認をする。
- 作業の妨げにならないように、教科書等に乗っているQRコードは、机にラミネート加工をして貼っておく。
- 欠席者対応として、あらかじめ教材を家庭に配布しておき、オンラインで授業を配信する。
- 板書の写真や授業内容をクラスルームに載せる。
- 密を避けるために、特別教室を2つ使用し、1教室15名程度にした。その際、T2の先生に、作業時の安全確認をしてもらう。
- 道具は共通で使用したもの（ミシンや机など）は、授業後にアルコール消毒をする。

4 成果と課題

(1) 成果

- 製作工程が載っているスライドを個人のタブレットで確認することで、自分のタイミングで工程を確認、振り返りをすることができた。
- 手順や道具の操作を自分で確認することができるので、生徒自身が考え自発的に活動することができた。
- 毎時、授業終わりに作品を写真に撮り、提出することで、作業の進捗状況を確認することができ、評価につなげることができた。
- 欠席生徒の対応として、授業をオンラインでつないだり、黒板の写真をクラスルームに掲載したりすることで、学習の保証ができた。

(2) 課題

- タブレット使用のルールを守れず、授業と関係ない操作をしてしまっていた。
- 時間の見通しが持てないと、片付けが遅くなり、作品の写真や感想を送信せずに退席してしまう生徒がいた。
- 生徒の実態によって、ICT機器操作に差があり、従来のアナログでの活動の方が適している場合があった。
- 写真提出の際に、作品が見にくくなってしまったり、評価として使いたい部分の写真が撮れていなかったりしたので、事前の言葉かけが必要であった。

【内容B 食生活】

1 題材名 ますます好きになる肉の調理

2 本時の指導

(1) 小題材 「煮込みハンバーグの調理をしよう」

(2) 目標

- ・肉の調理上の性質がわかる。
- ・中まで火を通す調理ができる。

(3) 展開1 ※学級を半数に分けて、入れ替えながら実施する。

時配	学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5分	<p>見いだす</p> <p>1 前回の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の計画表を見て、持ち物や身だしなみ、材料等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの生徒と相互点検をするよう呼びかけ、準備ができたならアルコール消毒を行う。 	<p>ワークシート エプロン 三角巾 ハンカチ ふきん 台ふきん 箸 ペーパータオル ごみ袋 教科書 ノート ワーク iPad 筆記用具</p>
5分	<p>自分で取り組む</p> <p>2 煮込みハンバーグ作りの手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煮込みハンバーグの作り方の動画を視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで動画を送る。 ・一回目は画面共有で解説しながら全員で視聴する。わからないところは各自でもう一度確認させる。 ・ガスを使う時は目を離さないこと、焼き上がったなら盛り付けの前に報告することを確認する。 	
15分	<p>広げ深める</p> <p>3 煮込みハンバーグをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挽肉、フライドオニオン、胡椒をビニール袋に入れ、30回以上こねる。 ・牛乳に浸したパン粉と卵を加え、さらにこねる。 ・小判型に整え、空気を抜いて中心をへこませる。 ・中火で両面を焼いた後、トマト水煮、ケチャップ、ウスターソース、水を加えて10分煮る。 ・竹串を刺し、透明な肉汁が出ることを確認する。できたら教師に報告し、再度点検を受ける。 ・時間になったら皿に盛り付ける。写真を撮って、ロイロノートで提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やけどや食中毒などの危険がないよう取り組ませる。そのために必要な基礎的基本的な技能についてはその都度指導する。 ・肉を体温で温めないよう素早く形を整えさせる。 ・火加減をこまめに確認させる。 ・安全面については特に注意して指導を行う。 ・中まで加熱できているか点検を行う。 ○中まで火を通す調理ができる。 [知識・技能] 	<p>フライパン 蓋 フライ返し ビニール袋 紙皿</p>
10分	<p>4 試食する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守って黙食する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ方向に座らせ、黙食を呼びかける。 	
10分	<p>5 片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った用具を洗い、水気を拭き取る。 ・身の回りの整頓ができたなら、教師に報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで協力して行う。 ・やるべきことがわからない生徒には具体的に指示を出す。 	

5分	<p>まとめあげる 5 本時のまとめをする。 ・反省、感想を含めた自己評価を記入する。 ・本時の振り返りをする。</p> <p>6 次時の確認をする。 ・調べ学習のやり方を確認する。</p>	○肉の調理上の性質がわかる。 [知識・技能]	ワークシート
----	--	---------------------------	--------

展開2 ※学級を半数に分けて、入れ替えながら実施する。

時配	学習活動	指導・支援 ○評価（方法）	資料
5分	<p>見いだす 1 前回の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 ・調べ学習のやり方を確認する。</p>	・無言で取り組ませる。	iPad 筆記用具
20分	<p>自分で取り組む 2 インターネットを用いて、配付された課題の調べ学習を行う。</p>	・ロイロノートで課題を送る。	
20分	<p>広げ深める 3 調べた内容をレポートにまとめる。</p>	・机間巡視する。 ・テキストを使うよう指導する。	
5分	<p>まとめあげる 5 課題を提出する。 6 次時の確認をする。</p>	・調理実習の持ち物があるかを確認する。	

ハンバーグの副材料には、どんな役割があるだろうか。

3 題材の工夫

感染症対策として、学級を半分に分けて実施した。1つの作業台に生徒を2名ずつ配置し、それぞれが作業できるようにした。食物アレルギーを持つ生徒は、1名で作業台を使えるようにし、材料が混ざらないように配慮した。

ロイロノートを用いて、動画を送ったり完成した料理の写真を提出させたりした。動画を見ることで、一人一人が手順を確認することができた。動画が早いと感じる場合、生徒自身の操作でスロー再生することができるので、動画をよく確認して調理を行っていた。動画は一部早送りで作成していたため、肉が縮むようすがよくわかり、変化を実感できた。提出用の写真を撮る際にも、肉汁が出ているようすがよく分かるように撮影するなど工夫していた。

調べ学習のグループには、ロイロノートで課題を送った。生徒は課題についてインターネットで調べ、まとめた。課題はロイロノートの提出箱に提出させた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・密をつくらずに師範を見せることができ、分からないところは繰り返し見ることで、自分で解決することができた。
- ・事前に調理の手順を動画にまとめ、生徒に配付したことで、説明の時間を短縮できた。
- ・提出状況が一覧ですぐわかり、指導がしやすかった。

(2) 課題

- ・自習監督の協力を得るため、他の教員に負担をかけた。
- ・調べ学習では、コピー&ペーストをしている生徒がおり、自分の言葉でまとめさせることが難しかった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学習環境が整ったことで、授業や課題を配信することができ、学びの保証ができた。
- ・意見の共有がしやすくなった。
- ・製作過程で、写真や動画を提出させることで、進捗状況や技能の習得状況を把握することができ、評価がしやすくなった。
- ・写真や動画を何度でも振り返ることができ、生徒自身で課題解決することができ、スムーズに作業を進められるようになった。
- ・アンケートが手軽にできることで、生徒の実態が把握しやすくなった。
- ・主体的に学ぶ力や表現方法が身についた。
- ・調べ学習では、ICTを活用することで、資料を容易に集めることができた。
- ・ロイロノートの画面共有やミライシードのオクリンクなどを活用することで生徒一人ひとりが手元で見ることができ、視認性が向上した。
- ・動画は分かりづらいところで自由に止めたりスロー再生したりすることができるので、確認や振り返りが簡便化した。
- ・グループ学習では、以前であれば、意見を発表することが苦手であった生徒も、ロイロノート等に意見を入力することで、級友と考えを共有させることができた。
- ・班で意見をまとめる際も Jamboard を用いて、それぞれの端末で作業を進めることができ、密を避けながらまとめることができた。

(2) 課題

- ・オンライン授業等に対応した研究を進め、実践例や教材を充実させることが必要である。
- ・情報モラルについての学習が必須である。
- ・フリック入力とキーボード入力
- ・家庭環境により、ICT への理解度に差があり、スタートの時点での差が大きい。
- ・口頭で自分の意見を発表する機会が減った。
- ・コピー貼り付けが簡単にできることで、自分の言葉でまとめることができなくなっている。
- ・写真や動画等をテレビに映して見る場合、座席の位置によって画面が反射したり小さかったりして見づらいことがあった。

5 おわりに

GIGA スクール構想が段階的に進むと思っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、急速に進んだ。そのため、ルール作りが後追いになってしまっている。市町村によって、ネット環境や貸与されているタブレット端末が違うため、使えるアプリケーション等の性能に差がある。一人一台端末が導入された時期にも差があった。

しかし、身につけるべきスキルは同じでなければならないので、今できている差を今後埋めていく必要があると感じた。そのために、教職員のスキルを向上させていくことが欠かせないと思われる。具体的な手立てとして、以下の3つのスキルが必要である。

- ①カメラ機能を活用して、記録するスキル
- ②個別学習、協働学習で1人1台端末を活用する指導スキル
- ③一斉学習で、大型提示装置を活用する指導スキル

6 参考文献

- ・中学校学習指導要領（29年告示）解説 技術・家庭科編 文部科学省
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭科 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・中学校技術・家庭科 家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫 筒井 恭子編著、東洋館出版社 2021年
- ・中学校技術・家庭科 家庭分野 指導スキル大全 筒井恭子編 明治図書 2022年

資料編

【内容B 衣生活】



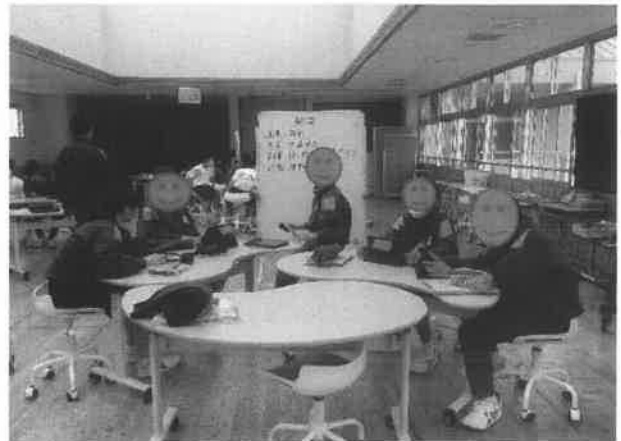
1つの作業机に最大2名までとし、対面に座らないように配置を工夫した。



密を避けるため、調理室も使用した。こちらも、対面にならないように、全員が一方方向を向くようにした。



一人1台配られたタブレットに、共通の製作手順が載っているスライドを送ることで、いつでも作業工程の確認をすることができる。説明時に密にならないという利点と、自分のタイミングで作業を進めることができた。





第4回目の授業（黒板写真）

内容：独立行政の手帳、独立請求（クリエイティブラボ）

表題：独立請求の動機、意義

連絡：クラスルームのアンケートをまだ受取していない人は、必ず個人で実施すること。
次回以降はオンラインで実施します。

資料ファイル

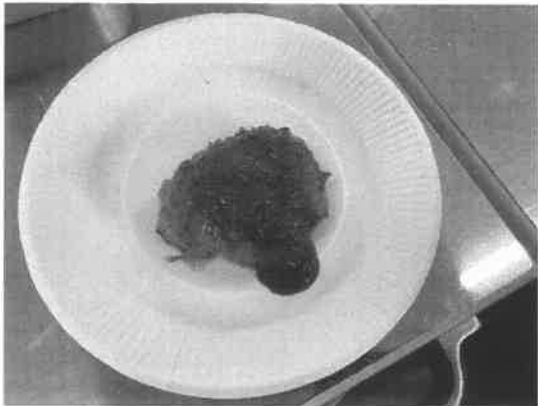
- 2022/06/08 9.55.png
- 2022/06/08 9.33.png

コメント

コメントのリスト

欠席者対応として、オンラインでの授業配信と、黒板やプリントの写真を Google クラスルームに載せることで、学習の保証となるようにした。

【内容 B 食生活】



肉の調理（煮込みハンバーグ）

組 氏名

学習課題：

持ってきたものに○

エプロン ・ 三角巾 ・ 手ふき用タオル ・ ふせん ・ 台ふせん ・ 箸

ティッシュ ・ ビニール袋 ・ 教科書 ・ ノート ・ ワーク ・ iPad ・ 筆記用具

作り方	材料	1人分	群
①*をビニール袋に入れ、30回以上こねる。 パン粉は牛乳にひたしておく。 ②パン粉とたまごを加えて、さらによくこねる。 ③小判型に整え、()。 ④中火で両面を焼いた後、★を加えて弱火で10分煮る。 一目安：竹ぐしを刺すと()が出てくる。 ⑤絡みになったらさらに煮る。	*ひき肉	80g	/
	*フライドオニオン	大さじ1	
	パン粉	小さじ1	
	牛乳	小さじ2	
	たまご	1/4こ	
	*こしょう	少々	
	*トマト水煮	25g	
	*ケチャップ	大さじ1	
	*ウスターソース	大さじ1	
	*水	大さじ2	

時間	5	15分	10	10	5
	準備	作業	試食	片付け	まとめ
やること					

自己評価	1. 肉の種類と特徴が分かりましたか。	A	B	C
	2. 新鮮な肉を選ぶポイントが分かりましたか。	A	B	C
	3. 肉の調理上の性質が分かりましたか。	A	B	C
	4. 肉の衛生的な扱い方がわかり、調理をすることができましたか。	A	B	C

キーワード () 生活に生かそう

分かったこと、気づいたこと

終了時刻 (:)

主食	主菜	副菜	汁物
	煮込みハンバーグ		

肉の調理 (煮込みハンバーグ)

組 氏名

学習課題: 安全に調理するために身をつけることは何がわか

持ってきたものにO

エプロン・三角巾・手拭タオル・おさげ・食器洗剤・箸
 ティッシュ・ビニール袋・製氷皿・ノート・マーカー・皿・筆記用具

作り方	材料	1人分	秤
①*をビニール袋に入れ、30回以上こねる。 パン粉は牛乳にひたしておく。	*ひき肉	80g	1
②パン粉とたまごを加えて、さらによくこねる。	*フライドオニオン	大さじ1	
③小皿型に盛え、くぼきをついて、中央に穴をあける。	パン粉	小さじ1	5
④中火で両面を焼いた後、★を加えて弱火で10分煮る。 一旦空気を抜くとくぼき(肉汁)が出る。 長時間になったらさらに盛る。	牛乳	小さじ2	2
	たまご	1/4こ	1
	*こしょう	少々	
	*トマト水煮	25g	
	*クチャップ	大さじ1	
	*ウスターソース	大さじ1	
	★水	大さじ2	

時間	5	15分	10	10	5
	準備	作業	試食	片付け	片付け
やること	準備	こねる → 穴をあける → 中火で焼く → 中火で火を通す。	試食	片付け	片付け

口	1. 肉の種類と特徴が分かりましたか。	A	B	C
己	2. 新鮮な肉を選ぶポイントが分かりましたか。	A	B	C
評	3. 肉の調理上の工程が分かりましたか。	A	B	C
仁	4. 肉の煮込みの正しい方法がわかり、調理をすることができましたか。	A	B	C

キーワード: (中火で火を通す) 生活に生かそう
 火を通すと透明な肉汁が出る 食べる前に中が透っているか確認
 分かったこと、気づいたこと
 大丈夫だと思っても、中がまだ火を通すのが難しい。
 もっと肉をうすくすれば良かった。

終了時刻 (1) : (10)

主食	主菜	副菜	汁物
米	煮込みハンバーグ	ポテト	味噌汁 (わかめ)

調べ学習① 2年 組 名前

1. 次の材料は、ハンバーグを調理する上で、どんな役割があるか答えなさい。

玉ねぎ

パン粉

牛乳

たまご

塩

こしょう

2. 飲食店でハンバーグやステーキを注文すると鉄板の上によって提供されることがよくありますが、それはなぜか答えなさい。
(ハンバーグやステーキは調理済みのものです。)

3. 外国のひき肉料理を一つ調べて、それがどんな料理か説明しなさい。

料理の名前

料理の説明

調べ学習①	2年
1. 次の材料は、ハンバーグを調理する上で、どんな役割があるか答えなさい。	
玉ねぎ	肉の臭みを消す
パン粉	肉汁を吸収する
牛乳	肉の臭みを消す
たまご	崩れやすい食材をまとめる
塩	肉のタンパク質をつなげる
こしょう	肉の臭みを消す
2. 飲食店でハンバーグやステーキを注文すると鉄板の上によって提供されることがよくありますが、それはなぜか答えなさい。 (ハンバーグやステーキは調理済みのものです。)	
冷めてしまうと固くなり、味が変わるから。	
3. 外国のひき肉料理を一つ調べて、それがどんな料理か説明しなさい。	
料理の名前	ラザニア
料理の説明	ラザニアパスタという板状のパスタをミルフィーユ状に乗せて焼いた料理。イタリアで生まれ、ミートソースやホワイトソース、チーズ、ひき肉などが使われている。

【内容 A】

1 題材名 幼児とのよりよい関わり方を考えよう

2 本時の指導

(1) 小題材 「幼児のための動画をつくろう」

(2) 目標

- ・動画作成を通して、幼児のためのよりよい関わり方を考え、工夫することができる。
- ・幼児の心身の発達を理解し、動画作成に取り組むことができる。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援	○評価	資料・道具
導入 5分	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を確認する。 見いだす	・興味・関心が高まるような導入を心がける。 ・見本の動画を用いてイメージを持たせる。		板書 ワークシート テレビ
幼児のための動画をつくろう。				
展開 20分 15分	自分で取り組む 2 動画作成の手順を確認し、分担決めるを行う。(グループ活動) ・手遊び歌の振り付け、歌を覚える。 ・絵本の読み聞かせ見本をみて、練習にいかす。 広げ深める 3 絵本の読み聞かせ練習をする。 ・動画をみて改善点を話し合う。	・動画作成の手順・分担決めなどを説明する。 ・手遊び歌の振り付け、歌の動画を見せる。 ・絵本の読み聞かせ、めくりのポイントや注意点を伝え、見本をみせる。		ワークシート テレビ タブレット
まとめ 10分	まとめあげる 4 本時の学習で身につけたことを自分の言葉で学習のまとめを書く。 5 本時の学習を踏まえて、次時の学習に対するめあてをもつ。	・グループごとに絵本の読み聞かせ練習の指示を出す。 ・声の大きさ、トーン、読む早さに注意させる。 ・撮影動画をみて、どのように改善すればよいか考えさせる。 ○グループで意見交換をし、幼児のためのよりよい動画作成のために工夫している。[思考・判断・表現] ○幼児の心身の発達の特徴について理解し手遊び歌や読み聞かせを工夫している。[知識・技能]		ワークシート テレビ タブレット
		・学習を振り返らせ、書く時間を確保する。 ・代表生徒に撮影動画をロイロノートに提出させる。 ・学習がつながっていくことを理解させ、次の時間の課題を持たせる。 ・ワークシート回収		ワークシート タブレット

3 題材の工夫

家族の形態が核家族中心となり地域との交流も希薄で異年齢との交流が少なくなっている。それにもない、中学生が幼児とかかわる機会はきわめて乏しくなっている。また、現在コロナ禍で保育実習が実施できない状況にある。よって本題材では、幼児が喜ぶ動画作り活動を通して、中学生とは違う特徴をもった幼児への理解を深めさせるとともに、家族や他者を思いやる心を育てることにつなげていきたい。

具体的には以下の内容である。

- ①幼児との触れ合い体験が少ないという生徒実態をふまえ、幼児の発達段階に応じた視聴覚教材を活用したり、体験活動を通じて、生徒の幼児に対する関心や学習意欲を高めるための工夫を行う。
- ②自らの成長に多くの人々がかかわっていることを再確認するため、自分の成長を振り返るレポートを課題として作成する場を設定する。
- ③動画作りを通じて、意見交換、改善点の話し合い活動を取り入れる。話し合う場面では、改善の過程や意図が明確になるようにプリントを用いる。
- ④幼児の年齢や発達段階を考えて手遊び歌や絵本を選び、実践するときは表情や動作、語り方など表現方法を工夫する。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・手遊び歌の練習の際に、繰り返し参考動画を見返すことができた。
- ・自分たちの動画の進め方や読み聞かせの語り方などを見返すことで、各班が工夫を凝らし、子どもたちが楽しめるような動画を作成することができた。その際、YouTube風の取り方は子どもたちの反応がとてよかった。
- ・提出先の子どもたちの動画を見ている様子を実際に生徒に見せることで、振り返り学習がスムーズに行うことができた。
- ・司書さんから読み聞かせのポイントを教わることで、スムーズに読み聞かせ練習をすることができた。

(2) 課題

- ・タブレットの機材が足りず、撮影が困難になってしまったグループが出てしまった。
- ・撮影中に他のグループの声が入ってしまった動画があり、聞き取りにくくなってしまい、撮影場所の割り振りを工夫する必要があった。
- ・撮影方法や動画編集に差が出てしまった。
- ・交流実習を行うか行わないか、判断するのが遅くなり、動画撮影や提出時期が1月になってしまい大変になってしまった。

【内容A】

1 題材名 幼児の喜ぶものをつくろう

(コロナ禍で、予定していた調理実習ができなくなってしまった代替え。3年時の保育の幼児のおもちゃづくりを2年生で前倒しで食育とコラボレーション)

2 本時の指導

(1) 小題材 「調べた食品をフェルトでつくろう。」

(2) 目標

・食品調べでまとめたレポートの食品を、フェルトで作って表現することができる。

(3) 展開 (2時間)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
導入 5分	<p>1 前時までの学習内容を振り返りながら、本時の学習内容を確認する。</p> <p><u>見いだす</u></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I C Tを使ってフェルトの食品の作り方を調べ、作ってみよう。</p>	<p>・前時までの『中学生に必要な栄養を満たす食事』からのまとめとして、自分が調べた食品や料理の特徴を考え、フェルト製作の計画を立てる。</p>	<p>レポート 教科書 タブレット</p>
展開 15分	<p><u>自分で取り組む</u></p> <p>2 食品のフェルト製作についてワークシートにまとめる。</p>	<p>・食品をフェルトで製作する際の、情報を選びまとめさせる。 ○型紙、製作手順、材料縫い方を調べ、製作計画を立てることができる。[主体的に学ぶ姿勢] [思考・表現・判断]</p>	<p>ワークシート タブレット フェルト手芸本</p>
70分	<p><u>広げ深める</u></p> <p>3 製作を始める。</p>	<p>・用具の安全な使い方を指導する。 ・型紙をフェルトに写し、必要な部位ごとに裁断する。 ・型紙を丁寧に複写し、寸法も正確に裁断できるよう助言する。 ○タブレット、フェルト手芸本を使って、かがり縫い・ブランケットステッチなど調べながら製作することができる。[知識・技能]</p> <p>・机間巡視しながら、製作についての修正点や工夫点を助言する。</p>	<p>タブレットフェルト 型紙 裁縫箱 フェルト手芸本</p>
まとめ 10分	<p><u>まとめあげる</u></p> <p>4 本時のまとめ</p> <p>・完成した作品を掲示にて発表し、友達の作品を見合い、感想をレポートに記入する。</p>	<p>・完成した作品見て、修正点があれば修正させる。 ・完成した作品は、レポートといっしょに廊下掲示し、お互いの作品を見合い、良さを確認する。</p>	<p>掲示作品 感想シート</p>

3 題材の工夫

『中学生に必要な栄養を満たす食事』の題材でタブレットを使用し、選択した食品についてレポートを完成させ、まとめた。その後計画していた調理実習が、感染拡大で急遽できなくなり、代替え授業として、調べた食品をフェルトで製作し、『裁縫の基礎縫い』や保育の『幼児のおもちゃづくり』とコラボして作品作りに移行した。ICTを活用することで学習意欲が高まり、主体的に学ぶ姿がみられ 製作においても、繰り返し見返しながら作品づくりに取り組むことができる。

4 成果と課題

(1) 成果

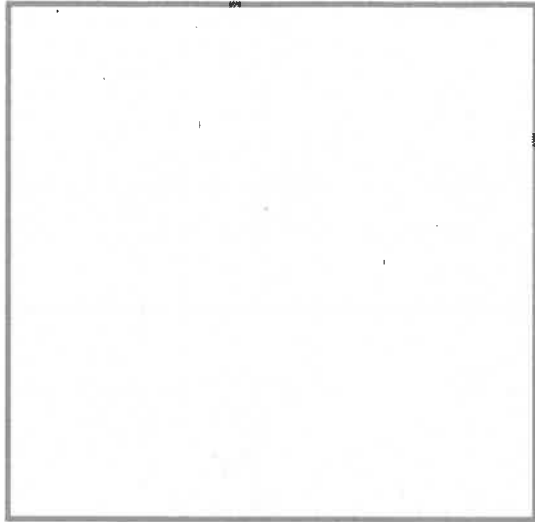
- ・ICTを活用することにより自分のペースで、繰り返し学習することができるので、裁縫に苦手意識を持っている生徒も、基礎縫いを正確に習得することができる。
- ・手芸本だけでなく、インターネットの情報から数多くの作品視聴ができ、工夫する姿がみられ主体的に学習に取り組む態度の評価にもつながり、よりよい完成作品となった。

(2) 課題

- ・すべてICTに頼ってしまい、同じ色、同じ形、同じ材料をそろえたり、場合に依じての発想の転換や工夫に結びつかない生徒も見られた。自分らしさの個性も大事にしながらの作品製作できるよう、もう少し作品鑑賞の時間がとれればよかったと思った。

フエルトの食品製作 計画書

*** 完成図 ***



材料

・フエルト 色()

・
・
・
・
・



- 手順**
- 1、型紙を切る
 - 2、フエルトに型紙を置き型を写す。
 - 3、パーツを縫い合わせる。()縫い → 動画で確認
 - 4、
 - 5、
 - 6、
 - 7、

自己評価 **A** **B** **C**

感想

【内容 B 食生活】

1 題材名 地域の食材と郷土料理について考えよう

2 本時の指導

(1) 小題材 「地域別の郷土料理の掲示物をつくろう」

(2) 目標

- ・地方によってどのような食材が取れるかを理解し、掲示物作成に取り組むことができる。
- ・気になった郷土料理をさらに掘り下げて調べ、プリントにまとめられるように工夫することができる。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
導入 8分	<p>見いだす</p> <p>1 地産地消、郷土料理について確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に栽培されている農産物や地域の地場産物を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞬快で画面共有をし、パワーポイントを使ってクイズをする。 ・地産地消、郷土料理とはどうゆうものかを説明する。 ・地産地消は千葉県の土地や気候、歴史と関係があることにふれる。(社会科と関連付ける) 	教科書 タブレット
展開 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> いろいろな地方の郷土料理を調べよう。 </div>		
	<p>自分で取り組む</p> <p>2 「なめろう」から、魚介類を使った郷土料理を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理の由来を知り、特徴を知る。 <p>広げ深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理は同じ食材でも作り方が違うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚介類を使った郷土料理を調べ、地方によってどのような食材が取れるかを理解し、班ごとにプリントに記入する。[思考・判断・表現] 	ワークシート 板書 タブレット
まとめ 16分	<p>まとめあげる</p> <p>4 郷土料理のまとめをする、発表する。(班の中で一人ずつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で代表を決め、作成したプリントを写真に撮り、写したプリントをそれぞれのパソコンに画面共有をしながら発表をする。 <p>(班で一人/指名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の中で気になった郷土料理の作り方を映像で見る。 ・世界の郷土料理を調べる。 ・学習まとめ、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土料理は同じ食材でも作り方が違うことを知る。 ○グループで確認をしながら協力して掲示物を作れるように指導する。 [主体的に学習に取り組む態度] ○写したプリントをそれぞれのパソコンに画面共有をしながら発表をする。 [主体的に学習に取り組む態度] ・声の大きさ、トーン、読む速さに注意させる。 ○発表の中で気になった郷土料理をさらに掘り下げて調べ、プリントにまとめられるように工夫する。 [知識・技能] 	タブレット、
6分	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の片づけ・点検、清掃を確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返らせ、書く時間を確保する。 ・自己評価シート、ワークシート回収 	ワークシート 自己評価シート

3 題材の工夫

- ・興味のある郷土料理を調べることができ、それぞれの地方の作り方や材料を絞って班で協力させることで ICT の活用をより活発に行うことができた。
- ・発表は大きな画面ではなく、一人一人が見えやすく、学校にいなくてもわかるように画面共有をして発表をさせる。
- ・ICT タブレットを使うとどうしても違うものを調べてしまうため、遠隔操作（瞬快）を使用した。

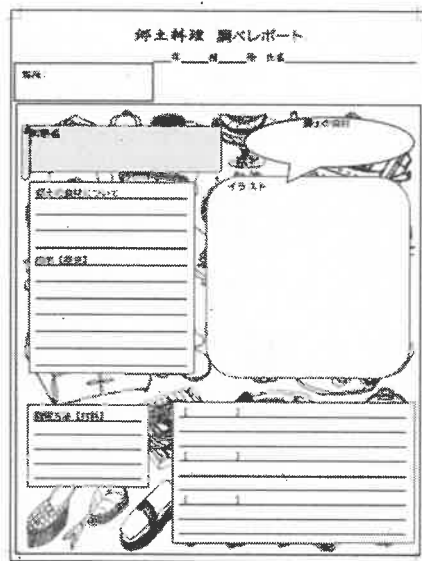
4 成果と課題

(1) 成果

- ・最初の導入で食に関するクイズで興味を持たせ、そこから自分で調べたいと思うように持っていくことができた。
- ・タブレット端末でゲームをすると、子どもたちの興味を引き出させることができた。

(2) 課題

- ・魚介類に絞ったことで、調べやすく知らない食材が出てきたため、学びが増えた。
- ・絵を描かせるのや、調べて見ているのに時間がかかりすぎてしまい、進みがばらばらであった。



実際に活用したレポート用紙



作成した掲示物



授業の様子

【内容B 食生活】

1 題材名 中学生に必要な栄養を満たす食事

2 本時の指導

(1) 小題材 「普段食べている食品の栄養について調べ、レポートをつくろう。」

(2) 目標

・食品に含まれる栄養素やはたらきを理解し、レポートにまとめることができる。

(3) 展開 (2時間)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
導入 5分	1 前時までの学習内容を振り返りながら、本時の学習内容を確認する。 見いだす	・前時までの『中学生に必要な栄養を満たす食事』のまとめとして、自分が調べてみたい食品や料理について考え、確認させる。	ワーク・ノート 教科書
ICTを使って食品について調べ、レポートを作ろう。			
展開 15分	自分で取り組む 2 食品について調べたい情報は何か考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">栄養成分、原材料、価格、旬、料理名、ことわざなど</div>	・食品調べをする際の、情報を選ぶポイントについて考えさせ発表させる。 ・個人によって重視する情報はそれぞれ異なってもよいことも説明する。 ○ICTを使った情報から必要な情報を選び選択することができる。「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」	ワークシート タブレット
60分	広げ深める 3 わかりやすさ、見やすさやまとめた際の工夫について考える。	・情報を受け取る側が印象に残るよう、レイアウトや、使う資料を工夫してまとめることができるよう考えさせる。 ○テレビにレポートを映し出し、良い点や更に工夫したい点を考え、まとめることができる。「知識・技能」「思考・判断・表現」 ○字の大きさ、色の工夫、写真、イラスト、レイアウトを考慮することができる。「知識・技能」「思考・判断・表現」	ワークシート テレビ タブレット
まとめ 15分	まとめあげる 4 タブレットを使って、レポートを作成、提出する。	・机間巡視しながら、見やすいレポートについての修正点や工夫点を助言する。	タブレット
5分	5 本時の学習を踏まえて、次時の学習に対するめあてをもつ。	・学習がつながっていくことを理解させ、次の時間の課題を持たせる。	

3 題材の工夫

『中学生に必要な栄養を満たす食事』の題材では、6つの基礎食品群を中心に、たくさんのごことを学習するが、タブレットを使用してこのようにレポートを完成することによって、まとめがしやうすい。コロナ禍で調理実習ができない時期には、調べた食品をフェルトで製作し、『裁縫の基礎縫い』や保育の『幼児のおもちゃづくり』とコラボレーションして作品作りに移行した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ICTを使って食品調べを行うことによって、たくさんのご情報を得ることができ生徒は興味関心を持って授業に取り組めた。
- ・調べ方やレポート例を掲示したり、テレビに映し出すことによって、クラスで情報共有が一瞬ででき、よい点や修正点、レイアウトなど、大きな画面を目でみて理解することができ、指導のしやうすさを実感した。
- ・たくさんのご情報の中から自分の調べる目的に合った情報を選び、メディアリテラシーについても考えることができた。

(2) 課題

- ・タブレットを授業で活用することで、いろいろな情報を瞬時に得ることができるが、簡単に情報をコピーし、貼り付けができるので、それだけでは終わらないように、複数の情報をまとめ上げることができるよう指導の工夫が必要と感じた。

～ 食品調べ ワークシート *レイアウトや内容は変更しても可～

年 組 番 名前

食品名

○○○ (○群)

・○○に含まれる栄養素

・○○を使った料理

・○○のことわざ

・旬はいつからいつまで

・加工するとどんな食品になるか

・おいしい○○の選び方

・○○の効能

・主な生産地

イラスト・写真など

【内容 B 食生活】

1 題材名 地域の食文化について知ろう

2 本時の指導

(1) 小題材 「地域ごとに異なるお雑煮について知ろう」

(2) 目標

- ・地域の食文化や行事食について理解する。
- ・進んで地域の食材を活用したり、行事食を継承しようとしたりする態度を育てる。

◎冬期休業中の取り組み

- ①「我が家のお雑煮調べ」を行い、ワークシートにまとめさせる。
- ②地域を1つ選び、お雑煮の作り方や使用している食材などを調べさせ、実際に調理させる。
その際にタブレットを用いて、調理中の写真や完成したお雑煮の写真を撮って記録に残す。
- ③「ロイロノート」を活用して、レシピカードを作成する。(写真1～4)

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
導入 5分	1 「我が家のお雑煮調べ」より、各家庭のお雑煮について共有する。	・事前に調べてきたことを共有させ、家庭で異なることに関心を持たせる。	ワークシート
展開 5分	2 本時の目標と内容を知る。 見いだす 地域ごとに異なるお雑煮について知ろう。	・本時の目標と内容を説明する。	
12分	自分で取り組む 3 個人で作成したレシピカードを提出し、班ごとに日本地図上にレシピカードを添付する。	・写真5のように日本地図上に、生徒が作成したレシピカードを添付させ、どこの地域のお雑煮かわかりやすくさせる。	タブレット レシピカード
	4 冬期休業中に調べて作成したレシピカードを班の中で発表する。	・レシピカードを班員に見せながら、発表するように指示する。班員は発表の様子を撮影するように伝える。 ◎地域の食文化についてやお雑煮には地域の食材が使用されていることを理解しているか。 [知識・技能]	タブレット レシピカード
10分	広げ深める 5 班ごとにまとめたものをテレビで映し、全体で共有する。	○他の意見を知り、新たな発見ができるようにする。	テレビ

まとめ 8分	まとめあげる 6 地域の食材を活用することや行事食の良さについてまとめる。 7 本時の学習を踏まえ、次時の学習に対するめあてをもつ。	◎地域の食文化や行事食について理解するとともに、進んで地域の食材を活用し、行事食を伝承しようとする態度が養われたか。 [主体的に学習に取り組む態度] ・学習がつながっていくことを理解させ、次の時間の課題を持たせる。	ワークシート ワークシート
-----------	--	---	------------------------------

3 題材の工夫

- ・タブレットを活用してレシピカードを作成させる。またそのカードを班員や全体で共有し、自分とは異なるレシピカードについても知らせる。レポートの作成のみで終わってしまわないように、タブレットでレポートを作成し、全体で共有させ、ICT (Information and Communication Technology) の Communication の部分を強化して実施する。
- ・調理した食事の写真が紙媒体だと印刷する必要があるが、多くの写真を用いることができないが、タブレットを活用して複数の写真を掲載できる。
- ・班の中での発表では、生徒間で撮影し教員が評価できるようにする。
- ・授業後もタブレットで作成したレシピカードは、印刷して掲示したり、作り方が載っているのでレシピ本のような形で作品として残したりすることができる。

4 成果と課題

まだ実施していないため記入なし。

<資料>

写真1

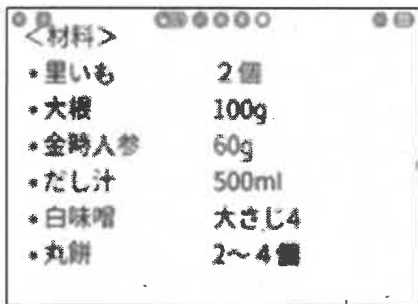


写真2



写真3

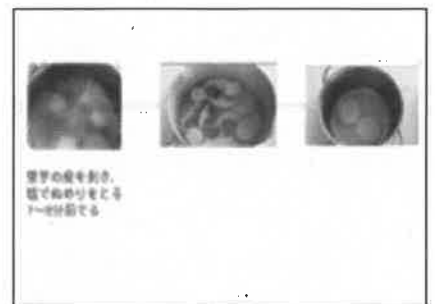


写真4

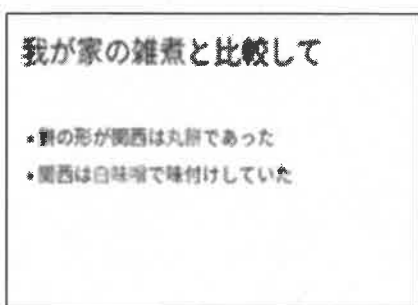
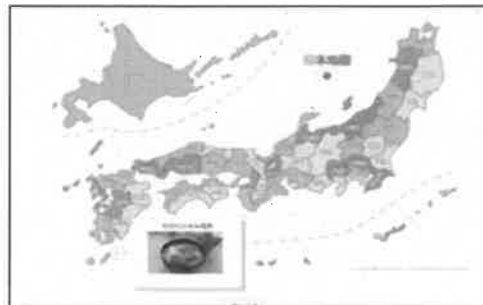


写真5



【内容B 食生活】

1 題材名 日常食の調理「こんなにおいしい魚の調理」

2 本時の指導

(1) 小題材「魚の調理上の扱いを知り、アジを3枚におろしてみよう」

(2) 目標

・衛生面や安全を考慮して魚をおろすことができる。

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	<p>1 挨拶・身支度の確認</p> <p>2 前時の学習内容を振り返りながら、本時の学習内容を確認する。</p> <p>見いだす</p> <p>魚の調理上のさまざまな扱い方を知り、アジをおろしてみよう</p> <p>自分で取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身支度、手指消毒の確認を徹底する。 ・安全面の確認をする。 ・本時の完成形を実際に見せ、興味・関心を持たせる。 	<p>教科書 実物見本 ノート アジ（実物）</p>
10	<p>3 実際におろす場面を見る。 ※おろしている場面を動画で撮影する。</p>		
30	<p>4 映像で手順を確認しながら各自でアジをおろす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜいごを取る ・えらを取る ・内臓を取る ・頭を取る ・3枚におろす <p>※水は出しっ放し ※流水で洗い流す ※汚れたらすぐに洗う ※冷たい手で素早く作業する</p> <p>広げ深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見える位置に生徒を集め、雰囲気だけでも感じられるように助言する。 ・細心の注意を払いながら、衛生的な作業について確認しながら説明する。 ・映像は繰り返し流して、生徒がつまづいた時に確認できるように支援する。 <p>○ [知識・技能] A衛生面と手順を考え、安全に魚をおろすことができる。 B映像を活用しながら魚をおろすことができる。</p>	<p>タブレット端末</p> <p>テレビ まな板 牛乳パック 包丁 氷 骨抜き皿</p>
35	<p>5 揚げ物の手順と注意事項を確認する。</p> <p>6 各自でアジフライを作る。</p> <p>7 試食をする。</p> <p>8 片付けをする。</p>	<p>手立て 問題点や作業のつまづきは、映像や友達の助言、大人の協力を得て進められるようにする。</p>	
15	<p>まとめあげる</p> <p>9 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣をつける際には、各自が手袋を使用するように声かけをする。 ・安全に油を扱うように注意を促す。 ・無言で試食する。 	調理材料
5	<p>10 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して後片付けをするように声かけをする。 	ノート

3 題材の工夫

コロナ禍ではあるが、「可能な対策をしてできることを増やしていこう」という学校の方針があったので、調理実習等にはできるだけ配慮をし、実習に取り組んだ。

「あじの3枚おろし」は技能的にも難易度の高い題材であるため、前時にも班に1尾の魚を用意し、1人1パーツずつを担当して作業をすることで、イメージを持てるようにした。また、実際の作業の動画を確認しながら調理することで、自分でできた達成感を得ることができると考えた。また、災害や自然の中での事故の際に、「生き延びるために自分ができること」のひとつに加えることができたらと考え、本題材を設定した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・生徒たちは普段家ではできない作業を楽しそうに行っていた。「触れない!」と言いながらもしっかり魚に触れ、自分のできばえに感動している様子であった。
- ・魚の目玉を触ってみたり、おなかから出てくるものに興味をもったり、魚の雄と雌を判断してみたりと、理科的な学習にも繋がったように思う。
- ・今、目にしたものと同じ作業の動画が近くにあることで、つまずいたときのヒントになっていた。
- ・目に見える資料があるのは、生徒にとってとても有効であった。途中の作業を何度も見直せることが良かった。

(2) 課題

- ・青魚アレルギーの生徒もいるため、細心の配慮が必要であった。
- ・あじの旬が夏(6~7月)であるため、気候や室温、魚をおろす際の注意事項が細かく必要であった。
- ・友達に聞くことの方が早いので、動画を見直すよりも近くに人に聞いたり、同じ班の人の作業を見る方を優先する生徒が少なくなかった。
- ・動画がヒントになるのはある程度の作業ができる、または理解している生徒が多かったように思う。

【内容 B 住生活】

1 題材名 安全な住まい方を考えよう

2 本時の指導

(1) 題材名 「安全に住まうための工夫を考えよう。」

(2) 目標

- ・安全に生活するためには「事故」「防犯」「防災」などに対する対策が必要であることを理解するとともに、より安全に暮らそうとする意識を高める。

(3) 展開

時配	学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	<p>見いだす</p> <p>1 前時までの学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの安全対策の視点を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・事故への対策 ・防犯対策 ・災害対策 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の視点を理解しているか確認する。 <p>○住まいの安全対策を理解している。【知識・技能】</p>	<p>ワークシート</p> <p>住まいの平面図</p>
10	<p>2 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>安全に住まうための工夫を考えよう。</p> </div>		<p>シール</p> <p>タブレット</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①あらかじめ用意しておいた自作の平面図に「事故」「防犯」「防災」の視点で必要な箇所にシールを貼る。</p> <p>②平面図の欄外にシールを貼った部分についての対策を記入する。</p> <p>③全ての作業が終了したら、タブレットで写真を撮り、同じグループ内で相互評価を行う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の進め方を黒板に提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動が進まない生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書に提示された活動内容を再確認させる。 ・事前に使ったワークシートを確認し、「事故」「防犯」「防災」についての安全対策を理解しているのかを確認する。 ・例題を示し、作業のヒントを与える </div>	<p>ワークシート</p>
5	<p>自分で取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全対策を住まいの平面図にシールを貼り、対策を記入する。 <p>広げ深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品をタブレットで写真に撮り、グループ内に送信する。 ・グループ内の作品を相互に見合い、講評を掲載する。 <p>まとめあげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに成果と課題を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対策の視点の違いを確認しやすいように色の違うシールを貼る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・事故の対策・・・水色 ・防犯対策・・・黄色 ・災害対策・・・赤色 </div> <p>○安全に生活するためには、「事故」「防犯」「防災」などに対する対策が必要であることを理解するとともにより安全に暮らそうとする意識が高まったか。【知識・技能】 【主体的に学ぶ態度】</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習内容と持ち物を確認する。 		

3 題材の工夫

- ・ICT を活用した視聴覚教材を使うことにより、住まいの安全対策について専門的な動画を活用する。
- ・これまではグループで話し合い活動を行ってきたが、コロナの感染予防を考慮し、タブレットの活用で作品の相互確認やコメントの掲載を実施した。
- ・タブレットを用いた相互評価では、発表が苦手な生徒も自分の考えを発表する場面が得られるようにした。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・コロナの状況から対面での話し合い活動ができない状況であったが、タブレットを用いることで、互いの作品を鑑賞したり評価のコメントを記入し合うことができた。
- ・普段、発表や感想を述べることを苦手と感じている生徒にとっては、タブレットにコメントを入れることはやりやすい学習活動であった。
- ・作品をその場でプリントし、提出する。もしくはデータを教員側に送ることで作品の回収を速やかに行うことができた。

(2) 課題

- ・本校の課題でもある「自分の考えをみんなの前で発表する」機会が減少してしまう傾向がある。
- ・グループでの相互発表をするにあたりその時間までに全員の作品が提出されていることが必要である。遅れがちな生徒への支援と対策が必要。
- ・各自が考えた安全対策を家庭における実践につなげるための手立てを検討中。初段階としてゴールデンウィークに家庭実践を行ったが、改良の点がある。

【内容 C】

- 1 題材名 いろいろな購入方法を知る
- 2 本時の指導
 - (1) 小題材 「いろいろな購入方法を知ろう」
 - (2) 目標
 - ・商品の販売方法と、支払い方法の種類と特徴を理解する。
 - (3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1 日常の買い物をどこでするか考える。 見いだす	・班ごとに衣・食・住・娯楽・学習など購入する身近な商品を決めさせ、買い物する場所が偏らないようにする。	
いろいろな購入方法を知ろう			
10	自分で取り組む 2 Web 上で購入疑似体験をする。 ・「夏休みの課題図書」を4つの店舗を比較して購入する。 ・ワークシートに各店舗の情報を記入し、整理する。 ・なぜその店舗を選んだのか理由を記入する。	ロイロノートで Web ページを送る。 ・各店舗の違いに気づかせる。	Web 東京都消費生活 ワークシート
20	3 どの店舗で購入し、どのような方法で支払いをしたのかを理由とともに発表する。 ・互いの意見から、特徴を考える。 ・販売方法と支払い方法の種類の特徴を考え、ワークシートに記入する。	・発表者の画面をミラーリングし、全体で共有させる。 ・様々な販売方法や支払い方法の種類に気づかせる。 ・販売方法や支払い方法の長所と短所を理解させる。 ・増加傾向にある、通信販売や電子マネーの利用上の留意点を説明する。	TV Apple TV
10	広め深める 4 購入条件を変更して、Web 版読本「どこで本を買う？」を再度疑似体験する。	・販売者や購入時期などの条件が変わると、販売方法や支払い方法の選択の基準も変わること理解させる。 ・消費者には「選択数権利」や「知らされる権利」が保証されていることに気づかせる。	Web 東京都消費生活
5	まとめあげる 5 学習内容をワークシートにまとめる。	○販売方法や支払い方法の特徴を理解することで、購入時の状況に応じたよりよい選択ができることがわかる。[知識・技能]	ワークシート

3 題材の工夫

- ・ロイロノート（共有ノート）を使用
- ・web 上の視覚教材を使用することにより、身近な購入方法や支払い方法を疑似体験する。
- ・グループでの話し合い活動に ICT 機器を活用することにより、発表が苦手な生徒も自分の意見を伝えさせる。
- ・繰り返し疑似体験させることで、より良い購入方法と支払い方法に気がつかせる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・コロナ禍の授業では、積極的な話し合い活動をする事ができなかったが、jamboard やロイロノートの共有ノートなどを使用することにより、他の意見を知ることができた。
- ・文字で自分の思いを書くことができるので、話をすることが苦手な生徒も自分の意見やアドバイスなども友だちに伝えることができた。また、思ったことをすぐに口に出してしまう生徒も、書いたことがきちんと伝わるか、正しい言葉遣いかなど考える余裕ができた。
- ・口頭での説明よりも、実際にタブレットを使用して購入方法等を疑似体験することにより、より身近なものとして捉えることができた。
- ・自分の考えをタブレット上に残すことで、いつでも見返すことができ、教師側の評価材料としても使用することができた。

(2) 課題

- ・タブレットの操作には慣れているが、余計な検索をする生徒もいるので、情報モラル等の授業をより一層丁寧に行う必要があると感じる。
- ・文字での意見発表はできるものの、口頭で自分の思いを伝えるということが難しい。



ワークシート ステージ1 どこで本を買う？

月 日 () 年 組 名前

1. 以下の選択肢から商品を1つ選んで○を付け、どこで購入するか、思いつくものをすべて書きましょう。

Tシャツ、ジュース、シャープペン、
シューズ、その他 ()

例：スーパーマーケット

2. 夏休みの読書感想文を書くために『吾輩は猫である』を1,000円以内で買ってくることにしました。

「どこで、本を購入するか」を決定するために、Web版読本にある4つの店舗の情報を集め、整理しましょう。

情報の手がかり	大型書店	リサイクル店	本屋	ネットショッピング
価格 (税込)				
支払い方法				
品揃え				
安心感 (接客含む)				
品質				
その他 (気付いたこと)				

3. 購入する店舗を1つ選びましょう。決め手となった情報とその理由を書きましょう。

選んだ店舗



情報の手がかり 価格 支払い方法 品揃え 安心感 (接客含む) 品質 その他

決め手となった情報の手がかり	選んだ理由

4. 販売方法の種類について、当てはまる言葉を () に書きましょう。

() 販売	専門店	デパート	直売所
	スーパーマーケット	コンビニエンスストアなど	
() 販売	() 販売 (ネットショッピング、テレビショッピング、カタログ販売など)		
	訪問販売	自動販売機	

5. 店舗販売と無店舗販売の特徴（メリット・デメリット）を書きましょう。

	店舗販売	無店舗販売
メリット		
デメリット		

6. () の中に当てはまるカードの名前を書きましょう。

支払方法	カードの種類	機能
前払い	プリペイド型 ()、() など	事前にお金を支払って、付与されたカード金額まで買い物などに利用できる。
即時払い	() カード	カード利用と同時に、代金が銀行口座から引き落とされる。
後払い	() カード	買い物の後に、代金が銀行口座から引き落とされる。

7. もう一度、ステージ1を見て、「どこで、本を購入するか」考えましょう。ただし、購入条件を変更します。以下の条件を基に、再度お店を決定しましょう。

目的	購入時期
() のために、() までに購入する	
例) 祖父母に頼まれて、『吾輩は猫である』を買って、明日帰省する	
	選んだ店舗 <input type="text"/>



情報の手がかり 価格 支払い方法 品揃え 安心感（接客含む） 品質 その他

決め手となった情報の手がかり	選んだ理由

8. 発表したり、話し合ったりした後、気付いたことを書きましょう。

9. 今日の学習を振り返り、これからの生活に生かしたいことを書きましょう。



ワークシート ステージ1 どこで本を買う？

月 日 () 年 組 名前

1. 以下の選択肢から商品を1つ選んで○を付け、どこで購入するか、思いつくものをすべて書きましょう。

Tシャツ、ジュース、シャープペン、
ジュース、その他 ()

例：スーパーマーケット

イオン 100均

2. 夏休みの読書感想文を書くために『吾輩は猫である』を1,000円以内で買ってくることにしました。

「どこで、本を購入するか」を決定するために、Web版読本にある4つの店舗の情報を集め、整理しましょう。

情報の手がかかり	大型書店	リサイクル店	本屋	ネットショッピング
価格 (税込)	800円	110円, 400円	800円	800円 (送料200円)
支払い方法	現金 図書カード クレジットカード QRコード	現金	現金 図書カード	コンビニ クレジットカード 代引 プリンターカード
品揃え		よくない 欲しい本がないかも	売りきれている こともある	欲しい本から 店をさがせる
安心感 (接客含む)	手にとり見られる 課題図書コーナー がある	手にとり見れる	店員に相談できる 手にとり見れる	店員に聞けない 手にとり見られない
品質	新品	中古	新品	新品
その他 (気付いたこと)	スマホ決済 できる			手続きが必須 本が届くまで時間がかかる

3. 購入する店舗を1つ選びましょう。決め手となった情報とその理由を書きましょう。

選んだ店舗

大型書店



情報の手がかかり

価格

支払い方法

品揃え

安心感 (接客含む)

品質

その他

決め手となった情報の手がかかり	選んだ理由
品揃え	課題図書コーナーがあって、すぐに見つけられる
支払い	現金だけでなく、QRコードなどでも支払いができる

4. 販売方法の種類について、当てはまる言葉を () に書きましょう。

(店舗) 販売	専門店	デパート	直売所
	スーパーマーケット	コンビニエンスストアなど	
(無店舗) 販売	(通信) 販売 (ネットショッピング、テレビショッピング、カタログ販売など)		
	訪問販売	自動販売機	

5. 店舗販売と無店舗販売の特徴（メリット・デメリット）を書きましょう。

	店舗販売	無店舗販売
メリット	直接手にとって見られる 他の商品と比較できる 説明してもらえる	店に行かなくても購入できる 通販は時間を気にせず購入できる
デメリット	店がないと見購入できない 営業時間に行かないと購入できない 店がないとその場で購入できない	通販は実物を直接見ることができない 通販は店員から説明してもらえない 訪問販売は他の商品と比較検討できない

6. () の中に当てはまるカードの名前を書きましょう。

支払方法	カードの種類	機能
前払い	プリペイド型 (電子マネー、図書カード) など	事前にお金を支払って、付与されたカード金額まで買い物などに利用できる。
即時払い	(デビット) カード	カード利用と同時に、代金が銀行口座から引き落とされる。
後払い	(クレジット) カード	買い物の後に、代金が銀行口座から引き落とされる。

7. もう一度、ステージ1を見て、「どこで、本を購入するか」考えましょう。ただし、購入条件を変更します。

以下の条件を基に、再度お店を決定しましょう。

目的 購入時期

(後払い) のために、(誕生日) までに購入する

例) 祖父母に頼まれて、『吾輩は猫である』を買って、明日帰省する

選んだ店舗 大型書店

情報の手がかり 価格 支払い方法 品揃え 安心感 (接客含む) 品質 その他

決め手となった情報の手がかり	選んだ理由
品揃え	いろいろな本が揃っているから
その他	ラッピングもしてもらえるから

8. 発表したり、話し合ったりした後、気付いたことを書きましょう。

中古の本は汚れていていやだと思っていたけど、一度読んでみたからという意見があり、そういう考えもあるんだと思った。

9. 今日の学習を振り返り、これからの生活に生かしたいことを書きましょう。

目的や条件がちがうと、見購入する店や支払い方が変わることがあった。これから買い物する時は、しっかりと考えるから店やお金の払い方を選びたいと思った。